

教育委員会の主な事務  
の点検・評価報告書  
【令和4年度事業】



令和5年8月  
鉢田市教育委員会

## 一 目 次 一

第1章 教育委員会評価制度の概要 .....	1
1. 点検・評価の趣旨	
2. 点検・評価の対象・期間	
3. 点検・評価の方法	
4. 点検・評価委員	
第2章 教育委員会の活動状況 .....	3
1. 教育長及び教育委員	
2. 教育委員会の開催状況	
①教育委員会会議	
②視察・研修等	
③開校式・入学式・卒業式	
第3章 点検・評価シート .....	8
1. 教育総務課 新しい学校づくり推進室	1 小中学校等給食費支援給付金事業 2 旭中学校区統合小学校整備事業
2. 指導課	3 英語指導事業 4 のびのび児童生徒推進事業 5 ことばの教室事業 6 特別支援教育支援事業
3. 生涯学習課	7 家庭教育支援事業 8 二十歳の集い事業 9 花いっぱい運動事業 10 放課後子供教室推進事業 11 生涯学習館管理運営事業 12 イングリッシュ・キャンプ事業 13 文化財保護・啓発事業 14 スポーツ推進事業 15 スポーツクライミング推進事業 16 体育施設管理事業
4. 公民館	17 公民館維持管理事業 18 公民館運営事業 19 芸術文化創造事業

5 . 図書館	2 0 図書館維持管理事業
	2 1 図書館運営事業
	2 2 図書館資料収集事業
	2 3 ブックスタート事業
	2 4 図書館環境改善事業 (地方創生臨時交付金事業)
	2 5 学校配本事業 (地方創生臨時交付金事業)
6 . 鉢田学校給食センター	2 6 鉢田学校給食センター運営管理事業 (地方創生臨時交付金事業) (繰越)

第4章 点検・評価シート ..... 35

## 第1章 教育委員会評価制度の概要

### 1. 点検・評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和31年法律第162号）第26条が平成19年6月に一部改正されたことに伴い、教育委員会は毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果について議会に報告するとともに、公表することが規定されました。

そのため、鉢田市教育委員会は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和4年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行について、教育に関する学識経験者の意見を活用して、点検及び評価を行い議会に報告を行うとともに、公表を行うものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

#### 第26条

- 1 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条の第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 2. 点検・評価の対象・期間

#### （1）対象

令和4年度の鉢田市教育委員会の事務事業を対象とする。

- ・ 教育委員会活動状況
- ・ 教育委員会主要施策

#### （2）対象期間

令和4年度 令和4年4月から令和5年3月まで

### 3. 点検・評価の方法

#### （1）自己評価

各主管課及び教育委員会による主要事業の自己評価を実施する。

#### （2）評価委員の意見聴取

教育委員会の自己評価に対し、外部の学識経験者による評価委員からの意見・助言を聴取する。

#### 4. 点検・評価委員

本市の教育行政（学校教育・社会教育全般）について、下記の教育に対し高い知見を有する学識経験者である委員の方から、専門的かつ広い視野からのご意見、ご助言をいただきました。

氏名	所属団体及び役職名
生 越 達	茨城大学教授
田 口 定 一	元小中学校長
今 泉 賢 一	元市 P T A 連絡協議会会長

## 第2章 教育委員会の活動状況

### 1. 教育長及び教育委員

本市教育委員会は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有する者の中から、市長が市議会の同意を得て任命した教育長1名及び4名の教育委員により構成されている。

鉢田市教育委員会教育長、教育委員(令和5年3月末時点)

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	安 原 優	令和3年7月1日から令和6年6月30日まで
教育長職務代理者	山 口 正 雄	令和2年12月27日から令和6年12月26日まで
委 員	長 洲 健 男	令和3年12月26日から令和7年12月26日まで
委 員	飯 島 功 成	令和元年12月27日から令和5年12月26日まで
委 員	大 原 優 子	令和4年1月22日から令和8年1月21日まで

### 2. 教育委員会の開催状況

令和4年度における本市教育委員会の定例会及び臨時会の主な活動状況は、下記の表のとおりである。

#### ① 教育委員会会議

教育委員会		開催日	議案等	報告等	件 名
定例会	4月	R4. 4. 25	5 件	1 件	議 1 : 鉢田市立学校管理規則の一部改正 議 2 : 鉢田市立幼小中学校評議員の委嘱 議 3 : 鉢田市社会教育委員の委嘱 議 4 : 鉢田市公民館運営審議会委員の委嘱 議 5 : 鉢田市図書館協議会委員の委嘱 報 1 : 指定校変更及び区域外就学の承諾
定例会	5月	R4. 5. 25	1 件	1 件	議 1 : 教育委員会事務局職員の人事異動 報 1 : 指定校変更及び区域外就学の承諾

教育委員会		開催日	議案等	報告等	件名
定例会	6月	R4. 6. 24	1 件	-	議 1 : 要保護、準要保護児童生徒の認定
定例会	7月	R4. 7. 25	6 件	1 件	議 1 : 鉢田市立学校給食センター運営委員会規則の一部改正 議 2 : 鉢田市立学校給食センター運営委員の委嘱 議 3 : 鉢田市立小学校評議員の委嘱及び解任 議 4 : 令和 5 年度使用小学校及び中学校教科用図書の採択 議 5 : 茨城県文化芸術功労者表彰候補者の推薦 議 6 : 要保護、準要保護児童生徒の認定 報 1 : 指定校変更及び区域外就学の承諾
定例会	8月	R4. 8. 24	4 件	1 件	議 1 : 鉢田市学校施設整備基金条例の制定 議 2 : 令和 4 年度鉢田市一般会計補正予算 議 3 : 調停について 議 4 : 要保護、準要保護児童生徒の認定 報 1 : 指定校変更及び区域外就学の承諾
定例会	9月	R4. 9. 28	6 件	1 件	議 1 : 鉢田市立学校給食センター給食費徴収規則の一部改正 議 2 : 令和 4 年度鉢田市幼稚園等給食費補助金交付要綱の制定 議 3 : 令和 4 年度鉢田市小中学校等給食費補助金交付要綱の制定 議 4 : 令和 4 年度鉢田市小中学校等給食費支援給付金交付要綱の制定 議 5 : 令和 4 年度鉢田市外小中学校等給食費支援給付金交付要綱の制定 議 6 : 旭中学校区小学校統合推進委員会設置要綱の制定 報 1 : 指定校変更及び区域外就学の承諾
定例会	10月	R4. 10. 25	3 件	1 件	議 1 : 旭中学校区小学校統合推進委員会専門部会員の報償費及び費用弁償の支給に関する要綱の制定 議 2 : 鉢田市ことばの教室設置要綱の一部改正 議 3 : 要保護、準要保護児童生徒の認定 報 1 : 指定校変更及び区域外就学の承諾
定例会	11月	R4. 11. 24	1 件	1 件	議 1 : 無形民俗文化財の市指定 報 1 : 指定校変更及び区域外就学の承諾

教育委員会		開催日	議案等	報告等	件名
定例会	12月	R4. 12. 26	3 件	1 件	議 1 : 鉢田市教育委員会事務局職員服務規程の一部改正について 議 2 : 専決処分の承認 議 3 : 要保護、準要保護児童生徒の認定 報 1 : 指定校変更及び区域外就学の承諾
定例会	1月	R5. 1. 25	2 件	1 件	議 1 : 鉢田市立学校管理規則の一部改正 議 2 : 事務職員の標準的な職務の例及びその職務の遂行に関する要綱の制定 報 1 : 指定校変更及び区域外就学の承諾
定例会	2月	R5. 2. 20	5 件	1 件	議 1 : 令和 5 年度鉢田市一般会計予算（案） 議 2 : 令和 4 年度鉢田市一般会計補正予算（案） 議 3 : 職員の分限休職処分等 議 4 : 要保護・準要保護児童生徒の認定 議 5 : 要保護・準要保護児童生徒（入学準備金）の認定 報 1 : 指定校変更及び区域外就学の承諾
臨時会	3月	R5. 3. 15	1 件	-	議 1 : 学校長等の異動内示
定例会	3月	R4. 3. 24	9 件	1 件	議 1 : 鉢田市教育委員会公印規則の一部改正 議 2 : 鉢田市児童生徒の就学校に関する規則の一部改正 議 3 : 鉢田市立図書館管理運営規則の一部改正 議 4 : 鉢田市立学校給食センター管理運営規則の一部改正 議 5 : 学校医及び学校薬剤師の解任 議 6 : 学校医及び学校薬剤師の委嘱 議 7 : 鉢田市文化芸術活動等における表彰候補者等選考委員会委員の委嘱 議 8 : 鉢田市芸術文化振興事業補助金審査会委員の委嘱 議 9 : 第 3 次鉢田市生涯学習推進計画改訂版の策定 報 1 : 指定校変更及び区域外就学の承諾

教育委員会 開催件数	議案等 件数	報告等 件数	備 考
開催回数 定例会 12 回 臨時会 1 回	47件	11件	*議-議案、報-報告 *件名は省略して表示しております。

## ② 観察・研修等

学校観察	……	令和4年7月5日（火）	出席委員4名 旭幼稚園、鉢田北中学校
		令和4年7月6日（水）	出席委員4名 鉢田幼稚園、鉢田北小学校
		令和4年7月7日（木）	出席委員4名 大洋小学校、大洋中学校
		令和4年7月8日（金）	出席委員4名 旭北小学校、旭西小学校
会議・研修会	……	令和4年9月8日（木）	出席委員4名 市町村教育委員会教育長・教育委員研究協議会 オンラインによる実施

## ③ 開校式・入学式・卒業式

開校式	……	令和4年4月6日（水）	出席委員4名 大洋小学校
入学（園）式	……	令和4年4月6日（水）	出席委員4名 大洋小学校
卒業（園）式	……	令和5年3月13日（月）	出席委員3名 鉢田北中学校、鉢田南中学校、大洋中学校
		令和5年3月17日（金）	出席委員4名 旭幼稚園、鉢田北幼稚園、鉢田幼稚園、つばさ幼稚園
		令和5年3月23日（木）	出席委員3名 旭東小学校、旭西小学校、鉢田南小学校

### 第3章 点検・評価シート

- |                         |  |
|-------------------------|--|
| 1. 教育総務課<br>新しい学校づくり推進室 | 1 小中学校等給食費支援給付金事業<br>2 旭中学校区統合小学校整備事業  |
| 2. 指導課                  | 3 英語指導事業<br>4 のびのび児童生徒推進事業<br>5 ことばの教室事業<br>6 特別支援教育支援事業   |
| 3. 生涯学習課                | 7 家庭教育支援事業<br>8 二十歳の集い事業<br>9 花いっぱい運動事業<br>10 放課後子供教室推進事業<br>11 生涯学習館管理運営事業<br>12 イングリッシュ・キャンプ事業<br>13 文化財保護・啓発事業<br>14 スポーツ推進事業<br>15 スポーツクライミング推進事業<br>16 体育施設管理事業 |
| 4. 公民館                  | 17 公民館維持管理事業<br>18 公民館運営事業<br>19 芸術文化創造事業  |
| 5. 図書館                  | 20 図書館維持管理事業<br>21 図書館運営事業<br>22 図書館資料収集事業<br>23 ブックスタート事業<br>24 図書館環境改善事業<br>(地方創生臨時交付金事業)<br>25 学校配本事業<br>(地方創生臨時交付金事業)  |
| 6. 銚田学校給食センター           | 26 銚田学校給食センター運営管理事業<br>(地方創生臨時交付金事業)<br>(繰越)   |

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	子どもたちの教育環境の向上				所属課	教育総務課
事 業 名	小中学校等給食費支援給付金					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	51,696 千円	
	項	1	教育総務費	予 算 現 額	51,696 千円	
	目	2	事務局費	執 行 額	45,589 千円	
	事業	3	学校教育総務事業	予算執行率	88.2 %	
				事業進捗率	100.0% %	

### 事業の目的及び今年度の取組み

目的：学校給食費を支援することにより、家庭の経済的負担を軽減し、より子育てしやすい環境の向上を図り、子育て世帯から”選ばれるまちづくり”を推進する。

取組み：市内に住所を有し、小中学校等に通う児童生徒の保護者が負担している給食費に対して、「小中学校等給食費支援給付金」を給付することで、負担額を1,500円とする。

### 目的の達成状況

市内学校に在学する児童生徒2,711名（うち、小学生1,775名、中学生936名）及び市外学校に在学する児童生徒102名（うち小学生17名、中学生85名）、計2,813名に対して支援金を支給し、事業効果を図るアンケートにおいて、97%の方から本事業が家計負担の支援として有効と感じたと回答を得ることができた。

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ 低い	事業検討時に実施したアンケートにおいて、子育てに関する負担のうち大きいと考えられるものについて回答を求めたところ食費（給食費を含む）との回答が1番多かったことから、給食費に関する支援は妥当性が高いと判断される。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ 低い	年度末に実施したアンケートにおいて、本事業の効果について回答を求めたところ、本事業が家計負担の支援として有効との回答が97%。また、本事業が教育・こども子育ての支援に有効との回答が95%であったことから有効性が高いと判断される。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ 低い	学校給食法において、施設設備及び運営に関する経費以外の経費（賄材料費）は保護者の負担とするとされていることから、給食費を免除するのではなく、受益者の申請に基づく支援金としているため、保護者からの申請が必要となるため事務処理における効率性に検討の余地があると考える。
総合評価	子育て世帯において、負担が大きいと認識をしている給食費に対して支援を実施し、支援として有効であるとのご意見を多くいただけたことで、子育て世帯のニーズに合致した施策として、事業設計及び運用ができたと考える。	

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	教育環境の向上				所属課 教育総務課 (新しい学校づくり推進室)
事 業 名	旭中学校区統合小学校整備事業				
予算科目	款 9	教育費	当 初 予 算	585,406 千円	
	項 2	小学校費	予 算 現 額	358,434 千円	
	目 3	学校建設費	執 行 額	275,809 千円	
	事業 5	旭中学校区統合小学校整備事業	予算執行率	76.9 %	
			事業進捗率	90.0 %	

### 事業の目的及び今年度の取組み

目的 : 錚田市公立学校施設再編計画に基づき、旭中学校区の小学校4校の統合を令和8年4月の開校に向けて推進する。

取り組み : ○学校用地の購入

- 基本設計書の作成、造成工事の基本設計・実施設計書の作成
- 旭中学校区小学校統合推進委員会の設置・開催及び専門部会の開催
  - ・推進委員会(3回)
  - ・校長部会(3回)、教頭部会(2回)、教務主任部会(1回)、事務職員部会(1回)、PTA部会(1回)

### 目的の達成状況

用地の確定が1年間遅れたことにより、開校までのスケジュールの見直しを行い、当初のスケジュールで令和4年度に予定していた、実施設計業務・造成工事は次年度(令和5年度)事業とし、開校の1年間延期を決定した。事業の経過や今後のスケジュールについて保護者説明会を開催した。

令和3年度から繰り越した業務として、繰越予算により学校用地41,520m<sup>2</sup>の確保と、基本設計等を完了した。基本設計業務を進める中で、排水方法の比較検討を行い、用地を購入し調整池を整備する方針となった。

また、議員代表、教職員代表、PTA代表、地域住民代表の計23名からなる旭中学校区小学校統合推進委員会を設置し、全32項目の協議事項について各専門部会での協議が開始できた。

基本設計業務により必要となった追加の土地購入については、次年度取得する計画とした。

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	旭中学校区統合小学校整備を進めていくため、実施設計業務の基となる基本設計書完成及び造成工事の実施設計書完成は必要不可欠であり、妥当性は高いと考える。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	基本設計書と造成工事の実施設計書が完成したことにより、次年度の業務である、実施設計業務や造成工事の業務推進がスムーズになるため、有効性は高いと考える。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	基本設計業務や推進委員会については、方針案の検討・評価・案の決定・承認のサイクルが必要であるが、そのような中でも漏れや手戻りがないよう進められた。
総 合 評 価	用地の確定が遅れたことから、開校が1年延期となったが、用地の購入や基本設計業務、造成基本・実施設計業務を完了することができた。また、旭中学校区小学校統合推進委員会を設置し、専門部会による各項目の協議も開始したことから、次年度以降の業務はソフト・ハード面とも見直したスケジュールにより計画どおりに進めることができる。 今後は、既に統合した3校での改善点を活かし、ソフト・ハード両面で多岐にわたり検討、協議を引き続き進めていく必要があり、関係機関・関係者との連携を一層深め事業を推進していきたい。	

令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施策名	指導体制の充実			所属課	指導課	
事業名	英語指導事業					
予算科目	款	9	教育費	当初予算	39,160	千円
	項	1	教育総務費	予算現額	39,160	千円
	目	2	教育指導費	執行額	37,308	千円
	事業	1	英語指導事業	予算執行率	95.3	%
				事業進捗率	100.0	%

事業の目的及び今年度の取組み

目的 : 文部科学省では生徒の英語力向上を目指し、「生徒の英語力向上推進プラン」を進めている。今後も様々な面で国際化が進展し、国際的なコミュニケーション能力の育成は、必要不可欠になる。そのため、小学校からの外国語活動にも目を向け、児童生徒に生きた英語に慣れさせ、コミュニケーション能力の素地を養う。

取組み : 各中学校のほか、小学校3~6年生を対象として、外国語指導助手(ALT)を配置し、日本人教師と共に外国語(英語)活動を行った。

また、小学校1~2年生や幼稚園を訪問し、児童園児が英語文化、異文化に触れる機会を設けた。

児童生徒に、ALTを活用したネイティブな英語に触れされることで、英語に親しみ、グローバル社会に対応する意欲を向上させた。

目的の達成状況

ALTを活用した授業の展開を図り、児童生徒が積極的に外国語を聞いたり、話したりすることにより、英語の4技能(聞く・話す・読む・書く)を高め、コミュニケーション能力の育成に努めることができた。令和4年度より、ALTの1日の勤務時間を、6時間から7時間としたことで、これまで勤務できなかった6时限までの授業にも対応できるようになり、教育課程編成上も含め、さらなる英語授業の充実が図れた。

また、引き続き小学校1・2年生や幼稚園にALTが訪問し、英語文化にふれる機会を設け、園児・児童との交流を深めた。

○アンケート調査結果

		R4		R3	
		小学校	中学校	小学校	中学校
英語の勉強は楽しい		86.80%	65.10%	85.30%	63.80%
これからも英語を学び続けたい		86.20%	75.40%	85.60%	69.70%
外国人の人たちと英語で話してみたい		75.70%	87.00%	72.90%	71.10%

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理由
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	異文化と共生する社会の形成のため、外国語教育(英語)の重要性は高まつてくる。社会のグローバル化に応じて、ネイティブの外国語指導助手と直接的な英語によるコミュニケーションの機会を設けることは大変重要である。外国人と日常的に接することで、英語に対する苦手意識は改善してきていると感じられる。
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	児童生徒にとってALTの発音を生で聞く生きた英語の授業は、英語に対する興味関心を高め、語学力の向上のために非常に効果的である。アンケート結果から、児童生徒に外国人と接する姿勢や異文化理解の意欲が高まつてきていると考える。
効率性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	各小中学校へ8名のALTの派遣を行った。1日の勤務時間を6時間から7時間にしたことで、6校時の授業にもALTを活用できるようになった。 更に、英語の授業がない時間を活用して、小学校低学年や幼稚園を訪問し、異文化交流の機会を設けることもできた。
総合評価	ALTの指導により生きた英語を学ぶことができ、興味関心を高めるとともに、読むことや書くことに加え、聞く、話す力も付けることが出来、また、自國以外の人とコミュニケーションを図る機会を得られることで、言語や文化について体験的に理解を深められるなど、グローバル社会で活躍する人材の育成のためには必要な事業である。 昨年度に引き続き、「英語の勉強は楽しい」、「これからも英語を学び続けたい」、「外国人の人たちと英語で話してみたい」の項目でアンケート調査を実施したところ、昨年度よりも肯定的な意見割合があがった。特に中学校での肯定的意見の伸び率が高くなつた。これらのことから、英語に対する苦手意識の改善や、親しみをもつて英語の授業に取り組めているということが考えられる。 しかし、中学校において「英語の勉強は楽しい」と感じる生徒が65%となっており、昨年度から肯定意見が向上しているとはいえ、あまり高くない数値である。そのため、 <u>小学校段階からALTを活用したオールイングリッシュの授業を展開し、英語の学習が楽しくなるような授業改善</u> を行っていくことが今後の課題といえる。	

令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施策名	児童生徒の健全育成				所属課	指導課
事業名	のびのび児童生徒推進事業					
予算科目	款 9	教育費	当初予算	51,492	千円	
	項 1	教育総務費	予算現額	43,392	千円	
	目 3	教育指導費	執行額	40,407	千円	
	事業 4	のびのび児童生徒推進事業	予算執行率	93.1	%	
			事業進捗率	100.0	%	

事業の目的及び今年度の取組み

目的：児童生徒の心のケア、保護者や教職員に対する支援、基礎学力の向上を図るため、適応指導教室(すずらんルーム)の設置、学力向上支援非常勤講師の配置、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの派遣を行い、教育環境の向上を進める。

取組み：不登校児童生徒の居場所を確保するための適応指導教室(すずらんルーム)の設置や各校へスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを派遣することにより、児童生徒の心のケア、学校生活等の支援を行い、家庭生活及び地域社会生活における児童生徒の教育上の諸問題に関する相談業務を行った。スクールカウンセラーと適応指導教室の連携を図るために、適応指導教室への派遣も行った。

また、小学校5年生、小学校6年生、中学校1年生及び中学校2年生を対象としてハイパーQ-Uテストを実施し、児童生徒が抱える心の問題をいち早くキャッチし、早期対策に繋げた。

学習面においては、学力向上支援非常勤講師を配置し、複数で授業を行うことで、きめ細やかな、個に応じた学習支援を進めた。

目的の達成状況

不登校やいじめ、暴力行為などの児童生徒の問題行動は、児童生徒が心に悩みや不安、ストレスを抱えていることが要因となっている。未然防止や発生した場合の対処のため、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの人材を派遣し、児童生徒の問題行動の解消に努めた。

また、少人数指導を進め、学力向上を図るため、学力向上支援非常勤講師を配置した。

※学力向上支援非常勤講師(市費)11名　※生徒指導相談員(適応指導教室勤務4名)

※スクールカウンセラー延べ5人、スクールソーシャルワーカー延べ3人

(※スクールカウンセラーの適応指導教室派遣4回、15時間を含む)

	すずらんルーム実績			スクールカウンセラーの実績		スクールソーシャルワーカーの実績		
	延べ来所者数	電話相談	訪問相談	巡回相談	派遣回数	派遣時間	派遣回数	派遣時間
R1年度	1,304人	320件	21件	79件	156回	969時間	68回	264時間
R2年度	800人	183件	2件	29件	199回	1,038時間	109回	395時間
R3年度	1,422人	304件	9件	41件	214回	1,252時間	47回	140時間
R4年度	1,023人	317件	7件	51件	208回	1,207時間	56回	168時間

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理由
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	専門的な立場で適切な指導助言を行い、子供たちの健全な育成に資することは必要不可欠な取り組みである。スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの派遣は、各学校からの要望に応じた回数を派遣した。 非常勤講師配置事業は、個に応じた指導・支援という観点で配置しているが、小学校の学力は、学年があがるにつれて向上させることができた。
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	児童・生徒、保護者の教育相談の窓口として、市単位での相談機関はとても有効である。すずらんルームの電話相談の件数が増加していることから、様々な事情で来所できない相談者を救えたと考える。 非常勤講師配置は、学力診断テストの結果等から個に応じたきめ細やかな対応ができ有効であったと考える。
効率性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーは県費負担による配置を行い、不足分を市費負担にて配置している。 また、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの派遣は、各学校からの要望に応じた派遣することで、効率的に実施できた。 適応指導教室の指導効率を高めるために、 <u>学校との情報共有をする場を多く設定していく必要があることから、関連学校の生徒指導主事等の適応指導教室訪問を増やした。</u>
総合評価		児童生徒の悩みや問題行動は多様化・複雑化しており、市としての相談窓口は不可欠であり、専門的な立場で適切な指導助言を行い、子供たちの健全な育成に資する必要がある。 適応指導教室は、子供たちの心の安らぎが得られる場として、学校と家庭との連絡調整役として取り組んでいる。中学3年生としては高校進学へ向けての学習の場ともなっている。 スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーについては、学校からの要望に応じた回数を派遣することができ、専門的な立場から児童生徒や保護者、教職員に助言・指導を行うとともに、アンケートや普段の様子からは読み取れない児童生徒の心の悩みを把握することにつなげることができた。引き続き、学校と連携を取りながら、適切なスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの派遣をしていく。 ハイパーQ-Uテストの実施により児童生徒が抱える心の問題をいち早くキャッチし、早期対策を図るとともに、夏季休業中等に行われる保護者との二者面談でも個票を活用し、情報共有ができるようになった。 学力向上支援非常勤講師の配置については、個に応じたきめ細かな指導が可能となり、授業時間が子供たちの楽しい時間の一つになってきている。

令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	児童生徒の健全育成					所属課	指導課
事 業 名	ことばの教室事業						
予 算 科 目	款 9	教育費	当 初 予 算			3,164 千円	
	項 1	教育総務費	予 算 現 額			3,164 千円	
	目 3	教育指導費	執 行 額			2,944 千円	
	事業 8	ことばの教室事業	予 算 執 行 率			93.0 %	
			事業進捗率			100.0 %	

事業の目的及び今年度の取組み

目的 : 主として就学前の子どもで、言葉の発達に障害のあるものに対して、情緒や行動面等の問題を含めた改善指導を行い、問題の早期改善につなげる。  
また、同時に保護者等への相談指導を行う。

取組み : 鉢田市生涯学習館内において「ことばの教室」を開設。週3日、9時～16時開設し、各幼稚園や保育所、保育園等からの通級指導を実施した。

- (1) 言葉に障害のある市内の幼児、児童等の把握
- (2) 言葉に障害のある幼児、児童・生徒等へのカウンセリングの実施
- (3) 保護者や教諭への指導・助言等
- (4) その他教育長及び旭幼稚園長が必要と認める事項

目的の達成状況

言語等の障害のある就学前の幼児について、早期発見・指導を行うことにより、問題の早期解消を図ることができた。  
また、保護者への教育相談や幼児の言葉等に関する指導を通して、就学指導や幼児の健全育成に資することができた。  
※ことばの教室への通級状況

	旭幼稚園	鉢田北幼稚園	鉢田幼稚園	つばさ幼稚園	市内保育所(園)	その他	計	通室終了児
R元年度	6	5	3	4	31	4	53	36
R2年度	4	9	2	3	23	2	43	35
R3年度	6	6	0	1	18	1	32	17
R4年度	3	7	1	2	23	3	39	28

※その他:おうのめぐみ保育園、いばらきさくら園、いばらき中央こども園

評価項目	高 ──事業の評価── 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	健康増進課との連携も含め、言葉に障害のある市内の幼児、児童を把握し、対象となる幼児等の対応、指導が実施できる。 幼児とその保護者に対する相談機関は近隣にはないことから必要性が高い。 <u>また、言語だけでなく、発達等に不安がある保護者の相談についても積極的に行う機関が必要であることから、ことばの教室の設置は妥当性が高い。</u>
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	専門的知識をもつ指導員を配置することにより、対象幼児等の言葉の改善及び保護者への相談が実施できる。言語障害については早い段階での支援が有効であるが、令和4年度は39名の通室者のうち28名が通級終了となった。(11名は継続。)約7割の幼児が早期からの指導により、言語に関する不安が解消できたことで有効性は高いと考える。
効 率 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	鉢田市生涯学習館内において「ことばの教室」を開設し、充実した環境の中での指導が実施できた。 また、時間を区切った予約制をとることで、保護者同士で接する機会を減らし、不安なく通室できる環境を整えた。 幼児1名に対し、2名(指導員1名、指導員助手1名)で対応し、問題なく指導が実施できた。
総 合 評 価	一人一人へのきめ細かい指導によって、例年、通室幼児の半数以上の改善が図られている。幼児期の言葉の指導の難しさや発達の遅れに不安を抱える保護者は多く、「ことばの教室」の必要性は高い。また、同様な機関は近隣にはないことからも必要な施設であると考える。 <u>言語に不安がある保護者からは、健康増進課からの申請に加え、保護者からの直接申請も可能にした。これにより、健康増進課からの情報提供など、今まで以上の連携を図っている。</u> 発語の遅れだけでなく発達障害などの複合的な要因のケースもあることから、健康増進課で行っている定期検診との連携を図りながら、幼児の状況を包括的に捉え、広い視野に立って相談や指導ができる体系を整理していく必要がある。	

令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	指導体制の充実				所属課	指導課
事 業 名	特別支援教育支援事業					
予 算 科 目	款 9	教育費	当 初 予 算	49,597 千円		
	項 1	教育総務費	予 算 現 額	42,477 千円		
	目 3	教育指導費	執 行 額	41,244 千円		
	事業 9	特別支援教育支援事業	予算執行率	97.1 %		
			事業進捗率	100.0 %		
事業の目的及び今年度の取組み						
目的 : 教育上特別な支援を必要とする児童生徒に対し、介助、学習支援及び安全確保等の合理的配慮の提供を行うことで、誰もが安心して生活できる学校づくりを目指す。						
取組み : 小中学校に在籍する教育上特別な支援を必要とする児童生徒に対して、特別支援教育支援員を配置し、一人一人に応じた適切な教育支援を行う。						
目的の達成状況						
<u>教育支援委員会、指導主事、相談員の学校訪問及び学校からの情報をもとに、児童・生徒の状況を把握し、特別な支援が必要な児童生徒を確認し、支援員を配置した。</u>						
支援員の配置で落ち着いて学校生活が送れるようになったケースを、指導課だけでなく学校から情報（授業参観を含む）を得る保護者が増えており、子供の生活の様子から希望する保護者が増えている。引き続き、支援が必要な児童・生徒に適切に配置していく。						
※支援員の配置状況						
H30年度	11小学校	19名配置(最終)	※延べ20名			
R元年度	8小学校	20名配置(最終)	※延べ23名			
R2年度	8小学校	21名配置(最終)	※延べ22名			
R3年度	8小学校	26名配置(最終)	※延べ27名			
R4年度	7小学校・1中学校	26名配置(最終)	※延べ27名			
評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由				
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	特別な配慮をする児童生徒のための配置であり適切と思われる。支援員を配置することで、対象児童生徒だけでなく、落ち着いた学級環境にも貢献している。そのため、個への支援が充実し、安定した学級運営を図ることができる。その結果、学力向上にも寄与していると考える。				
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	支援員配置は、一人一人のニーズに応じたきめ細かな教育と効果的な授業の展開につながる。 また、学級の安定や学校運営に大きな効果が見られ、対象児童だけでなく、他の児童の精神的安定にもつながっている。				
効 率 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	対象児童生徒の実態や学校の状況に応じて、支援が必要な児童に、必要な時間支援できるよう支援員の配置を行うことができた。				
総合評価	<p>個別支援を必要とする児童生徒のため、令和4年度は、特別支援学級に在籍する児童を中心に、7小学校・1中学校へ支援員を延べ27名を配置し、学校生活上の介助や学習活動の支援に寄与した。</p> <p><u>対象児童生徒の心の安定が図られ、落ち着いて学習できるよう支援できた。また、そのことにより落ち着いた学校運営が行われた。</u></p> <p>支援員の配置により児童の安定した学校生活に寄与できているため、保護者からの希望も増えているが、支援員の人数にも限りがあるため、<u>本当に支援が必要な児童生徒に、適切に配置していく。</u></p> <p>支援員の人材確保に難しさはあるが、支援の必要な児童生徒は増加傾向にあるため、今後も学校のニーズに合わせた配置ができるよう人材確保と研修の充実に努めていく。</p>					

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	生涯学習活動の活性化				所属課	生涯学習課
事 業 名	家庭教育支援事業					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	1,433 千円	
	項	5	社会教育費	予 算 現 額	1,433 千円	
	目	1	社会教育総務費	執 行 額	1,200 千円	
	事業	8	家庭教育支援事業	予算執行率	83.7 %	
				事業進捗率	100.0 %	

### 事業の目的及び今年度の取組み

目的 : 家庭の教育力向上を図るため、保護者への学習機会を子どもの発達段階に応じて提供する。

取組み : 幼稚園及び小・中学校で開設された家庭教育学級(15学級)に補助金を交付し活動を支援した。各家庭教育学級では、話し合いを基本としたサロン型の開催、親子レクレーションやものづくりなど特色ある取り組みがされている。さらに、家庭教育学級だよりを家庭教育学級生(606名)に配付し、家庭教育についての情報提供を行った。

また、小学校就学時期の保護者を対象とした子育てアドバイスブック「クローバー」を説明する場を9か所で設けた。さらに、訪問型の家庭教育支援の活動も実施した。

### 目的の達成状況

幼・小・中学校全15校で開設した家庭教育学級においては、全学級生606名が3回以上の事業を実施した。さらに、家庭教育学級だよりを家庭教育学級生を中心に計6回配付した。2月には、子どもとの関わり方を見直すきっかけとなるよう、安のり子先生を講師とし家庭教育全体研修会を行い、41名が参加した。就学時健診に併せて実施している「学童期子育て講座」は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となったため、「入学に向けての親の心構え」として大野めぐみ保育園中西園長先生の講話を動画配信した。また、子育てアドバイスブック「クローバー」を保護者が家庭教育の重要性を認識するきっかけづくりを目的に保護者308名一人ひとりに手渡した。訪問型事業については、訪問42件、電話相談78件、メールでの相談27件であった。

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	目的は明確で、社会教育の中でも上位の施策としている。県では重点施策としている。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	子どもの発達段階に応じた事業の開催であるため、概ねの保護者はカバーできている。家庭の教育力向上に有効である。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	専門的知識を必要とするため、人材確保とコスト削減が難しい。経費及び対象範囲は概ね適正であるが、講師等の人材確保が難しい。
総合評価	家庭の教育力の低下が指摘されるなか、ますます家庭教育学習の機会や地域の教育力の向上が重要となっている。それに対する取組みとして、子どもの発達段階に併せた学習機会を保護者に提供し、家庭の教育力の向上を図ってきた。今年度は、家庭教育学級全体研修会を参集型に戻して開催したり、少しずつグループワークを行い、家庭教育の情報共有できる子育て仲間を増やす取組をしてきた。また、コロナ禍で集まることができない場合に備えて、Zoomにて講師の講話を録画し、動画配信したり、参加できない学級生に対しても家庭教育に関する資料を配付し、情報提供を行った。家庭教育支援事業では、対応に苦慮する案件が多くなってきており、支援員の人材育成、確保が課題となっている。	

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施策名	青少年健全育成の推進				所属課	生涯学習課
事業名	二十歳の集い事業					
予算科目	款	9	教育費	当初予算	1,364 千円	
	項	5	社会教育費	予算現額	3,976 千円	
	目	1	社会教育総務費	執行額	3,619 千円	
	事業	12	青少年育成事業	予算執行率	91.0 %	
				事業進捗率	100.0 %	

### 事業の目的及び今年度の取組み

目的： 20歳を迎えた成人者に対し、祝福と激励を送り、社会人としての責任ある行動をとるよう自覚を促す。

取組み： 当該年度20歳を迎える方と次年度に20歳を迎える方の代表により、二十歳の集い実行委員会を組織し、実行委員長を中心に式典の企画、運営及び新型コロナウイルス感染症対策等の協議を行った。

○令和5年二十歳の集い:令和5年1月8日(日)実施 (実行委員30名)  
実行委員会 計7回(リハーサル含む) 式典出席者 317名(出席率76.9%)

### 目的の達成状況

令和5年二十歳の集いでは、感染症対策ガイドライン作成、式典開催を2回に分け1回当たりの参加者数を抑制する、開催時間を短縮する、会場内の座席間の確保、来賓・家族の入場制限(介助者を除く。)、検温等の新型コロナウイルス感染症対策に加え、参加対象者全員に新型コロナウイルス抗原検査キットの事前配付を行った。また、式典の様子をYouTubeライブ限定配信したほか、記録映像制作・DVD配付を行い、20歳を迎える方等がコロナ禍でも記憶に残る式典となるよう努めた。

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理由
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	式典は、大人の仲間入りの行事として定着している。企画・運営は、成人式実行委員会で行い、式典準備や事務などは事務局(市)が行う。実行委員会と事務局がそれぞれの役割を果たし、連携して開催準備などが進められている。
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	20歳の方すべてを対象とし、毎年、式典の出席率は高く、事業への関心は非常に高い。
効率性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	20歳の方自ら運営・企画し開催する式典は、若者の考えが反映した式典となっている。コロナ禍での開催であったことから、会場内の密を避ける必要があったため、旭中学校講堂兼体育館に変更し、様々な経費が発生した。コロナ5類移行後の感染対策は、必要性・効果なども勘案した検討が必要となる。
総合評価	実行委員会の運営においては、引き続き、実行委員からの呼びかけや中学校への協力を依頼することにより人材の確保に努める。また、遠方の実行委員に対し、協議が遅延することのないようZoomによる会議を行っていく。 式典当日は、コロナ禍でボランティアの協力が得にくい状況下であったため、教育委員会の部署間の連携・強化を図りながら式典運営に努めた。結果として、混乱もなく厳粛かつ和やかなうちに式典を終了することができた。今後は「5類」への移行に伴い、感染対策の「5つの基本」を徹底した二十歳の集いの開催に努めたい。	

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名			青少年健全育成の推進		所属課	生涯学習課
事 業 名			花いっぱい運動事業			
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	273 千円	
	項	5	社会教育費	予 算 現 額	273 千円	
	目	1	社会教育総務費	執 行 額	244 千円	
	事業	12	青少年育成事業	予算執行率	89.4 %	
			事業進捗率		100.0 %	
事業の目的及び今年度の取組み						
目的 : 地域の住民、児童・生徒の環境美化に対する関心や意欲を高めるとともに、花づくりを通して地域コミュニティの再生・活性化を促進し、青少年の健全育成を図る。						
取組み : 花いっぱい運動に取り組んでいる団体(幼稚園、保育所(園)、小中学校、希望団体、職場等)の活動を支援するため、花の種を配布した。また、花を育てることを通して、まちづくりや人づくりに取り組んでいる団体を紹介し、花いっぱい運動の輪を広げるため、市花いっぱいコンクールを開催し優れた取り組みを表彰するほか、活動成果の周知を図った。						
目的の達成状況						
花の種子を33団体に配布した。市独自に花いっぱいコンクールを開催し、参加した15団体の現地審査、表彰式を開催した。また、団体の活動成果として、花壇等の写真を市内4か所(各公民館、旭総合支所)にパネル展示にて披露し、市民に広く周知を図るとともに、チャレンジいばらき県民運動が取り組む「花いっぱい運動定着化促進事業」の情報提供を行った。各団体は環境美化への意識が高く、市内の環境美化運動及び青少年の健全育成へと繋がっている。						
【参考(令和3年度)】 花の種子配布 40団体、コンクール参加 18団体						
評価項目	高	◀ 事業の評価 ▶	低	理 由		
妥 当 性	4 高い	3 ■	2 □	1 □	地域の住民、児童・生徒の環境美化に対する関心を高める意義は高い。活動団体は減少傾向である。背景には関わる者の高齢化や地域コミュニティの衰退などが考えられる。 環境美化事業としては、妥当性高く、青少年健全育成へと繋がっている。	
有 効 性	4 高い	3 ■	2 □	1 □	種子の配布や市花いっぱいコンクールの実施などで、市内各所にある花壇が整備され、環境美化に貢献している。	
効 率 性	4 高い	3 ■	2 □	1 □	参加者の意欲は高く、地域の交流や子どもたちの通学時のあいさつ声かけ運動にも繋がっている。また、奉仕活動などを通じて、地域のふれあいの場となっており、地域を元気にしようとする取組みの一助として意義は高いと言える。市から花の種子を無料配付しているが、種からの花づくりのため、生育の苦労が見受けられる。	
総合評価	団体構成員の高齢化や小学校の統廃合等により、種子配布団体が8団体減少したものの、新規に1団体が花いっぱい運動に加わったほか、花いっぱい運動に興味を持つ市民からの問い合わせも複数寄せられ、周知活動に一定の成果があつたと考える。今後も周知方法等を検討し、趣旨の理解を深め、運動の広がりを図るように努める。参加団体の環境美化への意識は非常に高い。また、コンクールにより評価されることで目的意識を持つことができている。地域コミュニティの衰退が危惧される中、地域コミュニティの輪を広げる機会創出の一端を担っている。					

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	生涯学習活動の活性化				所属課	生涯学習課
事 業 名	放課後子供教室推進事業					
予 算 科 目	款 9	教育費	当 初 予 算		876 千円	
	項 5	社会教育費	予 算 現 額		652 千円	
	目 1	社会教育総務費	執 行 額		495 千円	
	事業 15	放課後子供教室推進事業	予算執行率		75.9 %	
			事業進捗率		100.0 %	

### 事業の目的及び今年度の取組み

目的 : 放課後や週末等に子どもたちの安全・安心な居場所を提供するため、小学生を対象に、公民館等を活動拠点として自主学習の支援や多様な学習・体験プログラムを実施し、教育活動の充実を図る。

取組み : 毎月第4土曜日等に、とくしゅくの杜、旭・大洋公民館を活用し、学習支援員による補充学習、おもしろ理科先生の外部講師を招聘した体験学習の実施した。  
学習支援員に対し、事前打合せ会を開催して情報共有を図るとともに、外部講師との連絡を密にし、事業運営をスムーズに行った。

### 目的の達成状況

新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、以下の体験学習を実施した。参加した児童や保護者から好評が得られた。

#### ○鉢田で学び隊

- ・旭教室(旭公民館)、鉢田教室(とくしゅくの杜等)、大洋教室(大洋公民館)
- ・延べ開催数 19回
- ・延べ参加者数(延べ申込者数) 125人(178人)
- ・事業参加周知 広報ポスター・チラシ作成・配布 2回、広報ほこた掲載(令和4年7月号)、SNS掲載(開催毎)

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	児童の安全な場所づくり、勉強等のために、放課後子供教室の必要性は高い。また、行政が行うことで、保護者も安心して児童を参加させることができる。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	対象を市全域の小学校とし、事業の意図と受益者は整合している。 体験学習を取り入れた活動を実施することは、直接的な学ぶ機会の提供になり、有効と考える。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	講師謝礼は安価に設定されており、材料費等は参加者負担となっている。また、会場となっている地区公民館等の有効活用としても効果がある。
総 合 評 価	新型コロナウイルス感染症の影響等により、申込み後に参加を辞退する方が多かったものの、開催回数はある程度実施できたため、多くの児童の居場所が確保できた。 また、異学年の児童との交流が図られ、子どもの成長を育むことができた。 多くのリピーターはあったため、今後、新規の参加者の確保のため、児童が興味を持つ講座を検討するとともに、地域資源と人材の活用等について検討し、地域協力者等を確保することが必要である。	

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	生涯学習活動の活性化				所属課 生涯学習課
事 業 名	生涯学習館管理運営事業				
予 算 科 目	款 9	教育費	当 初 予 算	25,491 千円	
	項 5	社会教育費	予 算 現 額	24,224 千円	
	目 1	社会教育総務費	執 行 額	21,070 千円	
	事業 18	生涯学習館管理運営事業	予算執行率	87.0 %	
			事業進捗率	100.0 %	

### 事業の目的及び今年度の取組み

目 的 :市民・地域と協働・連携を図りながら、社会教育事業をはじめとする各種事業の円滑な推進し、効率的な運営を行う。鉢田市の魅力を市内外に発信する。

取組み :ボランティアの活用。企画展の実施。来館者の案内。

小学生、幼稚園児向けの事業の実施。

旭村史、鉢田町史等の販売。

### 目的の達成状況

市民学芸員ボランティアと共にによる企画展の実施

夏休み体験事業(小学生対象)の実施

校外学習の活用の場として提供(8小中学校1幼稚園 411人)

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	閉校小学校を活用し、地元の協力を得ながら、美化活動を行っている。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	鉢田市にまつわる土器、石器等の展示、特に企画展を実施することで、市内外を問わず、老若男女に鉢田市の歴史、文化を伝えることができる。
効 率 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	職員だけでは不十分になりがちな企画展をボランティアと共同で実施することにより、完成度の高めている。
総合評価	実質的に開館1年目であったが、地元の方や一般のボランティアの協力を得ながら、市民協働の場として事業を展開することができた。 企画展については、市内外を問わず、特に県外から多くの来館者が訪れたことから、歴史、文化に対する関心はかなり高いといえる。 校外学習で学んだ子どもが、後日親子で来館したように、来館者が一過性のものにならないよう魅力ある生涯学習館づくりを行っていく。	

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	社会の変化に対応する教育の推進				所属課	生涯学習課
事 業 名	イングリッシュ・キャンプ事業					
予算科目	款 9	教育費	当 初 予 算	1,969 千円		
	項 5	社会教育費	予 算 現 額	1,200 千円		
	目 1	社会教育総務費	執 行 額	1,179 千円		
	事業 19	イングリッシュ・キャンプ事業	予算執行率	98.3 %		
			事業進捗率	100.0 %		

### 事業の目的及び今年度の取組み

目的 : 学校で学んだ英語を最大限に活用できる機会を提供し、ネイティブスピーカーとの交流や異文化体験を通して、国際理解を深め、英語のコミュニケーション能力向上を図る。

取組み : 適切な対象者を選考するため、選考委員会を開催したほか、研修に対する不安を払拭するために事前説明会(保護者同伴)を実施した。

海外等での様々なシチュエーションで役に立つ英語表現を身につけられるようなレッスン内容とするため、現地スタッフと連絡調整を図った。

派遣生の研修で得た成果を研修報告書にまとめた。

### 目的の達成状況

選考委員会での面接は、委員による厳謹なる審査を行えた。派遣生は、定員割れとなつたが、派遣生が目標を持ち、積極的に研修に取り組むことができる内容を提供できた。また、研修期間中は感染対策を講じ、現地スタッフと連絡調整を密にするとともに、研修生同士のコミュニケーションの配慮に努めることができた。

○ 研修先 ブリティッシュヒルズ (福島県岩瀬郡天栄村大字田良尾字芝草1-8)

○ 研修期間 令和4年8月19日(金)～8月20日(土)1泊2日

○ 派遣生 22名

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	将来の鉢田市を担う国際感覚を持った人材育成することは妥当である。 応募資格は、市内に在住している中学1学年から3学年に在籍している生徒を対象としている。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	中学校の新学習指導要領では、より「話すこと」を重視した学習内容となっており、生徒のニーズに応えた適切なサービス提供がなされている。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	派遣参加の生徒数は限定的であるが、全生徒の学習目標ともなりえる事業であり、波及効果は高い。 派遣については、他事業に比べ一人当たりの育成にかかるコストは高いが、受益者から費用の一部を負担させている。
総合評価	異文化体験等を通じて、学習している英語を実際に使用し生活することにより、その活用力の向上を図れた。また、短い期間でも社会性、協調性、集団行動における規範意識を身に付けさせ、研修生の親睦を図り有意義な研修とすることができた。 引率者の教諭と協力し、怪我等する人を出ことなく、すべての日程を終了し、全員無事に帰路につくことができた。また、保護者に対してはスマホを利用したオープンチャットを活用し、派遣生の活動様子を写真に収めたり、バスの移動状況をお知らせし安心感を与えることができた。コロナ禍における実施の難しさも感じつつ、学校で学んだ英語を最大限に活用できる機会を提供できた。	

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施策名	文化財の保護・啓発				所属課	生涯学習課
事業名	文化財保護・啓発事業					
予算科目	款	9	教育費	当初予算	1,457 千円	
	項	5	社会教育費	予算現額	1,249 千円	
	目	4	文化財保護費	執行額	658 千円	
	事業	1	文化財保護・啓発事業	予算執行率	52.7 %	
				事業進捗率	100.0 %	

### 事業の目的及び今年度の取組み

目的：市民が郷土の歴史を理解し、関心を高め郷土愛を育むための各種取組を実施するとともに、指定文化財等の保護に資する事業を推進する。

取組み：文化財保護審議会の運営  
指定文化財の照会に係る調査  
指定文化財の保護に係る補助事業等の実施

### 目的の達成状況

文化財保護審議会の開催

埋蔵文化財照会281件(725筆)、試掘調査1件

茨城県文化課と合同の文化財巡視(延べ44件)

鹿行文化財研究会実施の研修会の参加

とくしゅくの杜を活用した土器、石器等に触れる体験の実施

無形民俗文化財の市指定

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理由
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	文化財は市民共有財産として、次世代へ継承していく責務があり、保護啓発に係る事業は公益性が高い。 また、文化財は地域づくり、地域振興には欠かせないファクターであり、今後は活用の取組の基盤として、かつ地域資源として保護・活用が望まれる。
有効性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	次世代を担う子どもたちが文化財に触れることを通して、地域の歴史や文化を理解する一助になるとともに、郷土愛を育むことに大きく寄与する。
効率性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	文化財に関しては価値観の違いによっても効率性の捉え方は大きく異なるが、各種取組みを工夫しながら継続していく必要がある。
総合評価	市内にある貴重な文化財等を周知、活用するなどの取組みを進めていく。 文化財の保護に関しては、所有者、管理者の負担軽減を図るために継続して補助金の確保に努めていく必要がある。文化財は従来の保護を重点とした取組みに加え、全国的に活用が進展し、文化財に対する市民の関心が高まっている。新たな文化財の指定や地域の掘り起こしなどの各種取組みが今後増加していくことが予想され、事業を継続していく必要性は高い。	

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	スポーツ・レクリエーション活動の推進				所属課	生涯学習課
事 業 名	スポーツ推進事業					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	4,189 千円	
	項	6	保健体育費	予 算 現 額	4,000 千円	
	目	1	保健体育総務費	執 行 額	3,449 千円	
	事業	3	スポーツ推進事業	予算執行率	86.2 %	
				事業進捗率	60.0 %	

事業の目的及び今年度の取組み

目的 : 市民がスポーツに触れ合える機会を提供し、スポーツの持つ楽しさや交流を通じて、市民の健康意識向上及び健康増進、また、競技水準の向上を図る。

取組み : 新型コロナウイルス感染症対策を講じて、軟式野球大会を実施。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により各教室、大会の一部を中止とした。

市スポーツ協会、市スポーツ少年団に補助金を交付し活動を支援。

目的の達成状況

第20回鉢田市軟式野球大会を、感染対策を講じ、規模を縮小し開催した(出場校10チーム(13校))。

卓球教室(春季・秋季)を開催し延べ328名の参加があった。そのほか、剣道大会、柔道大会の開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により中止とした。市スポーツ少年団においても、新型コロナウイルス感染症の影響によりスポ少まつりは開催できなかつたが、研修会は実施した。

日本アメリカンフットボール協会と連携協力に関する協定により、アメリカンフットボール/フラッグフットボールの普及・振興等協定の目的達成に向けた事業を実施した。

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	スポーツ大会については、中学生の実践を通した技術の向上に寄与している。 剣道大会や柔道大会は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により中止の判断をした。
有 効 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	スポーツ大会については、青少年の健全育成、他校生徒との交流を図ることができる。 スポーツ教室を開催することにより、市民がスポーツに親しむ機会を提供することができる。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	軟式野球大会については、鉢田市ライオンズクラブ、市内中学校の協力により実施している。 各種教室、大会の開催については、連盟(スポーツ協会)の協力により実施している。
総合評価	鉢田市軟式野球大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じ開催することができた。その他、中止となっていた卓球教室(春季、秋季)を防止対策を講じながら開催できた。また、スポーツ少年団の行事についても、スポ少まつり以外の事業が実施できた。スポーツ教室の開催は、市民がスポーツに親しむ機会を提供することができる。更に、スポーツ大会の実施は、青少年の健全育成に大きく寄与することから新たな参加者の獲得に努めるとともに、アメリカンフットボール/フラッグフットボールの普及・振興等について推進していく。	

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	スポーツ・レクリエーション活動の推進				所属課	生涯学習課			
事 業 名	スポーツクライミング推進事業								
予 算 科 目	款 9	教育費	当 初 予 算	14,108 千円					
	項 6	保健体育費	予 算 現 額	14,476 千円					
	目 1	保健体育総務費	執 行 額	10,680 千円					
	事業 7	スポーツクライミング推進事業	予算執行率	73.8 %					
			事業進捗率	100.0 %					
事業の目的及び今年度の取組み									
目的 : スポーツクライミング専用施設であるとくしゅくの杜スポーツクライミングセンターを活用し、クライミング競技会や使用資格講習会を開催し、スポーツクライミングの拠点づくりを目指すとともに、市の魅力発信につなげる。									
取組み : クライミング体験教室を開催し、生涯スポーツの一環として、スポーツを楽しむ機会を提供した。クライミングウォールを使用するための講習会を開催し、スポーツクライミングセンターの利用促進に努めた。 各種大会を開催し、スポーツクライミングと鉢田市の魅力を広く発信した。									
目的の達成状況									
クライミング体験教室(鉢田登り隊 !)			10回開催	延べ人数 174名					
クライミングウォール使用資格認定講習会			4回開催	参加人数 61名					
小学生クライミング教室			7校開催	参加人数 331名					
スポーツクライミング競技大会			4回開催	とくしゅくの杜メロンカップ(主催大会)、ユースフューチャーカップ鉢田2022(全国大会)等					
評価項目	高 ← 事業の評価 → 低		理 由						
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		国体で開催したスポーツクライミングを普及させることで、運動を通して、健康づくりに取り組む意識の向上が図れる。全国大会等を開催することで、スポーツクライミングセンターを広く周知することができる。						
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		クライミング体験教室を開催することで、生涯スポーツの一環として、スポーツを楽しむ機会を提供することができる。講習会を実施することで、安全にスポーツクライミングを楽しむことができる。						
効 率 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		茨城県山岳連盟の協力を得て効率的に実施している。小学校と連携を図り、小学6年生を対象とした体験教室を実施している。						
総合評価	体験教室を開催することにより、市民にスポーツに親しむ機会を提供することができた。スポーツ実技の指導及びスポーツに関する指導・助言を行うことにより、クライミングの普及向上が図れた。 スポーツクライミングセンターでとくしゅくの杜メロンカップ及びユースフューチャーカップ2022(全国大会)等を開催し、広く市内外へPRすることができた。 スポーツクライミングと当市の魅力を継続し広くPRしていく。								

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	スポーツ・レクリエーション活動の充実				所属課	生涯学習課
事 業 名	体育施設管理事業					
予算科目	款 9	教育費	当 初 予 算	117,744 千円		
	項 6	保健体育費	予 算 現 額	117,844 千円		
	目 2	体育施設費	執 行 額	116,255 千円		
	事業 1	体育施設管理事業	予算執行率	98.6 %		
			事業進捗率	100.0% %		

### 事業の目的及び今年度の取組み

目的：公共施設等総合管理計画及び個別施設計画に基づき、市民が身近にスポーツに親しむことができるよう施設の利用促進に向けて、施設の維持管理及び施設の機能充実を図る。

取組み：老朽化した施設の修繕を実施し利用者の安全確保に努めた。また、施設の改修を実施し、利用者の利便性の向上に努めた。

### 目的の達成状況

施設管理 旭スポーツセンター、鉢田総合公園、くぬぎの森スポーツ公園、大洋運動場、大洋武道館等の管理及び、閉校小学校体育館等の管理。

主要工事 旭スポーツセンター外灯LED化工事、旭スポーツセンター多目的トイレ新築工事  
くぬぎの森スポーツ公園スロープ設置工事

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	スポーツ振興及び施設の利用促進のため、維持管理することや、修繕・改修を施すことは必要である。今後も利用者の安全面や利便性を考慮しながら、計画的に実施していきたい。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	体育施設の維持管理や環境整備は、市民のスポーツ振興及び健康増進並びに利用者の安全確保に有効である。
効 率 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	改修等を行う際は、可能な限り集中的に工事を実施することで、施設の利用に支障が出ないように努めた。
総 合 評 価	体育施設の維持管理や修繕・改修は、サービス水準を維持していくために必要な事業である。限られた財源のなかで、最大限の効果が発揮できるよう緊急性や必要性を考慮しながら遂行していきたい。 今後も市民が安心して安全にスポーツに親しむことができる環境づくりのため、計画的な維持管理を行う必要がある。	

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	生涯学習活動の活性化				所属課	公民館
事 業 名	公民館維持管理事業					
予算科目	款 9	教育費	当 初 予 算	53,426 千円		
	項 5	社会教育費	予 算 現 額	56,986 千円		
	目 2	公民館費	執 行 額	42,302 千円		
	事業 2	公民館維持管理事業	予算執行率	74.2 %		
			事業進捗率	82.9 %		

### 事業の目的及び今年度の取組み

目的：文化振興を図るとともに市民一人ひとりへの学習機会づくり、生涯を通じて「学ぶ」体制づくりに努める。

取組み：鉢田中央・旭・大洋公民館における施設及び設備等を良好に維持するため保守点検・修繕を実施する。

法定検査22件、保守点検56件、修繕・交換・購入等29件の実施

[保守点検等内容]電気工作物、自動ドア、消防用設備、地下油槽タンク、浄化槽、水質、ボイラー等

[修繕・整備箇所]移動観覧席改修工事、空調設備修繕、高圧受変電設備修繕、舞台照明設備修繕  
玄関タイル修繕、マイクの購入等

### 目的の達成状況

施設及び設備等において法定検査・保守点検を実施し、修繕・交換を行い環境改善を図った。

鉢田中央公民館の高圧受変電設備・屋上給水管・消防用設備・照明器具の修繕、旭公民館にマイク購入、玄関タイル・講堂照明器具・空調設備の修繕、大洋公民館の移動観覧席・空調設備・駐車場区画線の修繕を行った。また、大洋公民館の舞台吊物の更新工事及び移動観覧席修繕工事は、電気制御部品の入手が困難となり、年度内の完成が見込めないことから翌年度への繰越明許費の設定をした。

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	公民館は社会教育の活動拠点として、利便性の向上を図るため、施設及び設備の維持修繕は必要である。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	学習の場所を提供するため、安全・快適な環境を整えることで、多くの市民に使用していただいている。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ □ ■ □ 低い	公民館3館は、施設及び設備等の老朽化により著しい機能低下があるため、改修工事及び修繕費用が増加傾向である。
総合評価	社会教育の活動拠点として、市民の教育活動の場所を提供しており、改修及び修繕を行うことにより、安全・快適に利用できる環境が整えられた。 しかし、老朽化により修繕等費用が増加となっており、今後においても増加傾向となる見込みである。	

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	郷土の自然・伝統・文化を継承し、生涯を通じて学び、活躍できる環境の充実			所属課	公民館
事 業 名	公民館運営事業				
予 算 科 目	款 9	教育費	当 初 予 算	6,557 千円	
	項 5	社会教育費	予 算 現 額	5,583 千円	
	目 2	公民館費	執 行 額	5,372 千円	
	事業 3	公民館運営事業	予算執行率	96.2 %	
			事業進捗率	140 %	
事業の目的及び今年度の取組み					
目的 : 文化振興を図るとともに市民一人ひとりへの学習機会づくり、生涯を通じて「学ぶ」体制づくりに努める。					
取組み : 公民館運営審議会(2回) <u>公民館講座(成人・青少年 予定75回 開催105回)</u>					
[成人教育] 定期講座(36回) 短期講座(32回)の開催					
[青少年教育]定期講座(16回)短期講座(21回)の開催					
[常設展示] 公民館講座及び定期クラブ等の作品展の開催					
目的の達成状況					
公民館運営審議会を開催し、事業進捗及び利用状況の報告、次年度事業計画等の審議を行った。成人教育は、定期講座36回 短期講座32回の開催、延べ参加者807名、参加者満足度96.24%青少年教育は、定期講座16回 短期講座21回の開催、延べ参加者475名、参加者満足度92.25%常設展示は、鉢田中央公民館で2団体が実施。高齢者教育は、12回開催。延べ参加者374名。講師登録支援は、登録者が4名。					
評価項目	高 ◀ 事業の評価 ▶ 低	理 由			
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	社会教育の活動拠点として、市民の教育活動の場所と学習機会を提供している。 <u>講座等は参加者アンケートを参考に計画しており、参加者の満足度も高かった。</u>			
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	例年、多数の受講申込があり、参加者の満足度も高い。生涯学習の貴重な機会として機能している。また、オンラインでの配信やICTに関する講座を実施するなど、市民のICTリテラシーの向上につながっている。			
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	講座や講演の講師料などの経費については、必要最低限のものとしている。また、出前で派遣される講師などを活用し、コスト削減に努めている。			
総合評価	各種講座や教室の開催により、市民の自主的な学習意欲の向上と仲間づくりをとした生きがいづくりの推進に努めた。実施した講座等について、一部オンライン配信を行い、来館することができない方に対する学習の場の提供ができた。				

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	文化・芸術活動の活性化				所属課	公民館
事 業 名	芸術文化創造事業					
予 算 科 目	款 9	教育費	当 初 予 算	22,291 千円		
	項 5	社会教育費	予 算 現 額	20,991 千円		
	目 2	公民館費	執 行 額	19,512 千円		
	事業 9	芸術文化創造事業	予算執行率	93.0 %		
			事業進捗率	95.5% %		
事業の目的及び今年度の取組み						
目的 : 質の高い公演やアウトリーチ及び芸術団体への支援等を実施することで、市民が多様な文化に触れる機会を創出し、芸術文化活動の振興を図る。						
取組み : 芸術文化鑑賞(ホール公演)の開催(公演9回)、市民劇団(練習月2回・公演2回)・市民合奏団(練習月2回・公演1回・その他出演2回)への活動支援 <u>音楽アウトリーチ(市内14幼稚園・小中学校延べ16校)、楽器別クリニック(4中学校)</u> ミュージカルワークショップ(計4回)、芸術文化振興事業補助金の交付(1団体)						
目的の達成状況						
新型コロナウイルス感染症対策として座席数の制限は継続したが、クラシック、邦楽、ファミリーコンサート、落語、お笑いライブなどの芸術文化鑑賞や、市民劇団・合奏団による定期公演を開催し、入場者数は延べ1,302人(1公演当たり108.5人/定員130人)となり、一部YouTube配信を実施するなど、市民へ多様な文化に触れる機会を提供した。また、 <u>市内の幼稚園・小中学校において実施したアウトリーチでは、クラシック、邦楽、声楽などのミニコンサートを行い、延べ1,593人のこどもたちへ音楽の素晴らしさを届けることができた。</u>						
評価項目	高 ← 事業の評価 → 低		理 由			
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		文化・芸術は心豊かな生活を実現していくために必要不可欠なものであり、一人でも多くの市民が多様な文化・芸術を享受できるよう事業を推進する必要がある。			
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		プロのアーティスト等による高い芸術文化に触れる機会を提供することに努めており、観覧者へのアンケートにおいても「満足」の回答は9割を超え、事業の効果は直接的であり、極めて有効な事業である。			
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い		コンサート等の提供型イベント開催だけではなく、市民参加型の市民劇団・合奏団・文化活動団体への支援により団体の自立的な活動を促した。また事業費に応じて有料公演(12公演中7公演)にするなど費用対効果を考慮して事業を実施した。			
総 合 評 価	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、人数制限など感染対策に配慮しながら事業を実施し芸術文化の振興を図った。公民館ホールにおける舞台の狭小さ、限られた観覧席数の中で、より多くのお客様に公民館へお越しいただき、いかに多くの方へ文化芸術に触れる機会を提供していくかが今後の課題である。 <u>引き続き、学校や関係部局と連携しつつ、SNS等を活用した広報も活用しながら新たな公民館利用者を獲得するなど、市民の文化意識の向上を図るために積極的に各事業を展開していく。</u>					

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	地域資源を活用した生涯学習活動の活性化				所属課	図書館
事 業 名	図書館維持管理事業					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	8,484	千円
	項	5	社会教育費	予 算 現 額	7,774	千円
	目	3	図書館費	執 行 額	7,144	千円
	事業	2	図書館維持管理事業	予算執行率	91.9	%
				事業進捗率	100.0	%

### 事業の目的及び今年度の取組み

目的：生涯学習の拠点施設として、快適に利用できるよう館内外の環境整備に努める。

取組み：定期的な施設の保守点検を実施するとともに、老朽化及び破損した施設や機器の修繕、備品の更新を行う。

- ・保守点検内容 消防用設備、自動ドア、図書館情報システム等
- ・修繕・工事箇所 ブラインド、受水槽、児童閲覧室スロープ床、トイレ排水溝、給排水配管  
玄関、消防設備 等

### 目的の達成状況

老朽化及び破損した施設や機器の修繕等を行うことにより、安全・安心に配慮した施設の整備をすすめるとともに、円滑な図書館の維持管理により安定した利用者サービスを提供することができた。

玄関はコインロッカー及び靴箱を撤去したことで利用可能な空間が広がり、広報や観光パンフレット、各課からのお知らせなどを置いて、情報発信の場として活用できるようになった。

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	安全安心に配慮した施設管理に努め、利用者に快適な環境を提供するのは、管理者としての責務である。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	適切な施設の維持管理により、利用者に快適な環境を提供することができた。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	予算を有効かつ効果的に活用し維持管理に努めた。保守点検及び修繕については、可能な限り休館日に実施し利用の妨げにならないよう工夫している。
総合評価		適切な施設整備により、利用者が快適に過ごせる環境整備に努めた。 建物屋上部の防水塗装が経年劣化により塗膜剥離、摩耗があったため応急修理を実施した。令和5年度に改めて屋上防水改修工事を実施する。 築40年超のため、外壁や施設備品に修繕や改修など対応が必要である。 蔵書数に対して書架が不足している。除籍や館内整理で蔵書を保存する場所の確保に努めている。新たな閉架書庫確保といった抜本的対策が必要である。

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	地域資源を活用した生涯学習活動の活性化					所属課	図書館					
事 業 名	図書館運営事業											
予 算 科 目	款	9	教育費		当 初 予 算	7,724 千円						
	項	5	社会教育費		予 算 現 額	7,754 千円						
	目	3	図書館費		執 行 額	6,973 千円						
	事業	3	図書館運営事業		予算執行率	89.9 %						
				事業進捗率	100.0 %							
事業の目的及び今年度の取組み												
目的 :市民が利用しやすい図書館の整備とサービスの充実に努める。												
取組み :図書館協議会の開催												
<u>企画コーナーの設置及び情報発信による利用啓発</u>												
あかちゃんタイム、おたのしみ会の実施												
「としょかん1年生」事業による小学1年生の利用促進												
県立図書館をはじめ県内図書館との資料の相互貸借を利用し、市民の読書意欲に応える。												
目的の達成状況												
貸出者(利用者)数 18,165人 (前年 18,054人 0.6%増)												
資料貸出数 71,558点 (前年 68,693点 4.0%増)												
あかちゃんタイム 利用者:77組 190人 おたのしみ会 9回実施 参加者:81人												
としょかん1年生 配付:62人 配付率 20.4%												
相互貸借 借受:607冊 貸出:108冊 (昨年度 借受:627冊 貸出:128冊)												
評価項目	高 ← 事業の評価 → 低			理 由								
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い			カウンター業務及びレンタルサービスの向上により、利用者が必要とするサービスの充実に努めた。								
有 効 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い			時節や行事にちなんだ図書を配架する企画コーナーを設けるとともに、市広報及びSNS等を活用した図書情報の提供により利用促進を図ることができた。								
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い			県内の図書館との相互貸借やレンタルサービス、企画展示等サービスの充実により徐々に利用者は増えている。また、学校配本事業の実施により団体貸出も伸びている。								
総合評価	読書意欲の向上を促すべく年間を通して企画展示を行うとともに、資料の予約・リクエストサービスに努めた。 臨時閉館を伴う館内設備改修工事による開館日数の減、新型コロナウイルス感染症による影響により、図書館利用状況の伸び悩みがあったと考えられる。 図書館の利用促進及び読書推進を図るため、更なる工夫が必要である。											

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	地域資源を活用した生涯学習活動の活性化				所属課	図書館
事 業 名	図書館資料収集事業					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	6,077	千円
	項	5	社会教育費	予 算 現 額	6,120	千円
	目	3	図書館費	執 行 額	6,119	千円
	事業	4	図書館資料収集事業	予算執行率	99.9	%
				事業進捗率	100.0	%

事業の目的及び今年度の取組み

目的 :市民のニーズに応えるべく広範囲な分野の資料を計画的に収集し、一般の利用に供する。  
取組み :利用者の貸出状況やリクエストをふまえ広範囲な分野から資料を選定し、計画的かつ効果的な資料収集に努める。

地域資料の収集・整備及び保存に努める。

絵本及び児童書の更新を図る。

目的の達成状況

購入資料内訳 図書 3,387冊 紙芝居 21冊 DVD 7点 CD 16点, 雑誌 34誌 新聞 8紙  
うちリクエスト購入数 図書 71冊(一般書:66冊, 児童書:5冊)

広報ほこた及び雑誌の製本

地域資料の収集・整備

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	予算を有効に活用し、蔵書構成、貸出状況、リクエスト等を勘案し資料の充実を図った。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	広範囲な分野の資料を計画的に収集することにより、利用者のニーズに応えることができた。 古書店からの購入及び個人からの寄贈により、地域資料の整備を行い蔵書の充実を図ることができた。
効 率 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	資料の受け入れ先を広げることにより、欠本していた資料を補充するなど効率的に収集することができた。
総 合 評 価	市民の知的好奇心と多様なニーズに応えるため、幅広い資料の収集と整備を図り、求められる資料や情報を提供することができた。 <u>利用者にとって魅力ある蔵書構成の構築及び蔵書の新鮮度を高めるため、市民目線での資料収集及び更新を図って行く。</u> 経年劣化による蔵書の買い替え、新しい情報に対応することや更なる蔵書の充実を図るため予算確保が必要である。	

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	地域資源を活用した生涯学習活動の活性化			
事 業 名	ブックスタート事業			
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算 569 千円
	項	5	社会教育費	予 算 現 額 579 千円
	目	3	図書館費	執 行 額 567 千円
	事業	6	ブックスタート事業	予算執行率 97.9 % 事業進捗率 100.0 %

### 事業の目的及び今年度の取組み

目的：月1回の乳児健診(4ヶ月)にあわせて事業を実施。絵本2冊を贈るとともに、ボランティアによる絵本を開く楽しい体験を通じ心ふれあう機会の提供と読書に親しむきっかけを作る。

取組み：ブックスタートパック(絵本2冊、布製バック、パンフレット「はじめまして絵本」等)配付  
フォローアップとして  
・あかちゃんタイムの実施

- ・1歳6ヶ月健診通知に「2歳から親子で読みたいおすすめの本」のパンフレットを同封
- ・年齢別おすすめの絵本の背表紙にシールを貼付  
・あかちゃん絵本コーナーの充実

### 目的の達成状況

ブックスタートパックの配付 受領者:202人

あかちゃんタイムの利用 利用者:77組 190人

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	赤ちゃんが読み聞かせの声に反応する様子を、保護者が間近に見聞きし、一緒に絵本を楽しむことを体験する貴重な機会となっている。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	月齢に適した絵本を配付し、ボランティアによる読み聞かせを体験することにより、自宅でも絵本に親しむきっかけづくりをすることができた。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	健康増進課と連携して、4ヶ月健診にあわせて実施することにより、 <u>地域に生まれた赤ちゃんと保護者に、もれなく絵本を手渡し、事業の目的を伝えることができた。</u> また、図書館事業の案内とともに来館を促すことができた。
総 合 評 価	ブックスタートを通して、乳児期に本と触れ合う機会を増やせたと考える。図書館の利用促進をアピールする機会ともなった。 図書館内では、乳幼児と保護者が、一緒に絵本に親しんでもらえる場所を確保(あかちゃん絵本コーナー)し、利用が容易な環境の整備(あかちゃんタイム)を行った。 今後も、すべての子どもたちが本に接し、読書に興味・関心が持てるよう、発達段階に応じた支援をしていくことが必要である。	

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	地域資源を活用した生涯学習活動の活性化				所属課	図書館
事 業 名	図書館環境改善事業(地方創生臨時交付金事業)					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	2,884 千円	
	項	5	社会教育費	予 算 現 額	2,570 千円	
	目	3	図書館費	執 行 額	2,538 千円	
	事業	7	図書館環境改善事業(地方創生臨時交付金事業)	予算執行率	98.7 %	
				事業進捗率	100.0 %	

事業の目的及び今年度の取組み

目 的 :新型コロナウイルス感染症拡大により、図書館利用を躊躇う市民が増えているため、安心して利用できる環境に整える。

取組み :館内のカーペットを、抗菌仕様に改修する。

利用者の感染予防・感染リスクの軽減を図るため、備品及び消耗品を購入する。

目的の達成状況

改修工事 児童閲覧室視聴覚室階段のカーペット張替え  
 備品購入 体温測定カメラ小型ミュージアムクリーナーセット  
 消耗品購入 抗ウイルスブックカバーフィルムクリーナー用紙パック

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	新型コロナウイルス感染症の感染予防とともに、感染リスクの軽減を図った。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	市民へ、快適で安全な施設利用を確保するために有効である。
効 率 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	令和4年度については、地方創生臨時交付金事業費補助金を活用して事業を実施している。
総合評価	経年劣化で、痛みが進んでいた施設を改修したことで、清掃効率を高めメンテナンス性が向上した。その結果、館内の衛生状態を、より向上させることができたと考える。 児童閲覧室においては、改修工事にあわせて書架の配置を最適化することができた。	

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	地域資源を活用した生涯学習活動の活性化				所属課	図書館
事 業 名	学校配本事業(地方創生臨時交付金事業)					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	9,219	千円
	項	5	社会教育費	予 算 現 額	9,189	千円
	目	3	図書館費	執 行 額	8,755	千円
	事業	9	学校配本事業(地方創生臨時交付金事業)	予算執行率	95.2	%
				事業進捗率	100.0	%

事業の目的及び今年度の取組み

目的 : 小中学校で、図書館の本を利用できる環境を構築することにより、接触感染のリスクを軽減するとともに読書環境の充実を図る。

取組み : ①授業の補助教材読書の時間等で活用する図書を、市立図書館の司書が選び、図書館員が学校へ届けることで、利便性の向上を図る。

②学校図書館に市立図書館の司書が、選書・展示する特設コーナーを設け、読書環境の充実を図る。

③学校独自の選書・購入枠を設け、特色ある学校図書館づくりに資する。

目的の達成状況

配本サービス(団体貸出) 7校のべ13回

市立図書館コーナーの設置 3校のべ12回

特色ある学校図書館づくり 予算額:各小中学校11校 1校あたり 20万円

配架冊数:合計1,101冊

学校配本用図書購入 1,102冊

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	事業の推進により、児童生徒の読書環境の充実及び利便性の向上を図ることができた。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	学校へのアンケートでは、学校図書館への図書館コーナーを設置することで、本に興味関心を持つ児童生徒が増え、学校図書館の利用も増えた授業に役立っているとの回答があった。
効 率 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	令和4年度については、地方創生臨時交付金事業費補助金を活用して事業を実施している。
総合評価	子どもたちの身近に、本のある環境を増やすとともに、読書機会の創出につながった。また、各小中学校に学校独自の選書・購入枠を設けたことで、特色ある学校図書館づくりに資することができた。 読書環境の充実のため、事業の推進を図っていく必要がある。	

## 令和5年度 教育委員会の点検・評価シート(令和4年度事業)

施 策 名	子どもたちの教育環境の向上				所属課 鉢田学校給食センター
事 業 名	鉢田学校給食センター運営管理事業(鉢田学校給食センター) 鉢田学校給食センター運営管理事業(地方創生臨時交付金事業) 鉢田学校給食センター運営管理事業(繰越)				
予 算 科 目	款 9	教育費	当 初 予 算	444,478 千円	
	項 6	保健体育費	予 算 現 額	461,329 千円	
	目 3	学校給食費	執 行 額	433,321 千円	
	事業 4	鉢田学校給食センター運営管理事業	予算執行率	93.9 %	
			事業進捗率	100.0 %	

### 事業の目的及び今年度の取組み

目的 :旭・鉢田・大洋地区の幼、小中学校の園児児童生徒へ安心で安全な給食を確実に提供する。

#### 取組み :

給食従事者の衛生管理(定期的腸内菌当検査、健康管理)の実施、学校給食衛生管理基準及び異物混入対応マニュアルに則った作業の実施により不適正事案の防止に努めるとともに、給食物資納入業者の指導、学校、配達、配膳に関わる者と連携を図り安全で安心な給食の提供に努める。

給食にかかる物価高騰対策として地方創生臨時交付金事業を活用した。

令和4年度の学校給食センターの統合に併せ給食センターの令和3年度工事のうち厨房空調設備等の改修工事を給食の提供に支障を生じないよう4年度の夏休みに繰り越して実施した。

#### 目的の達成状況

市内小中学校幼稚園に196日(約3,500食／日 7小学校・5中学校・4幼稚園・センター)給食を提供した。

衛生管理については、衛生管理基準及び異物混入対応マニュアルに則り不適正事案の防止に努めたが、異物混入事案については発生しており、調理前の食材の点検技術の向上を図る必要があった。また、食材の納入業者に対しても、食材の点検作業による疑義のある食材については改善を求めた。不適正事案については、個別具体的に改善した作業手順等をマニュアル化してデータとして整理し、給食業務従事者へ周知、研修するなど改善を図っている。

賄材料費や燃料費の物価高騰に対し、地方創生臨時交付金事業を活用することで、給食費を増額することなく高騰前と変わらない質・量を確保した給食の提供に努めた。

令和3年度空調設備等の改修工事を4年度に繰り越し、夏休み期間に工事を実施し調理従事者の就労環境の改善を図った。

	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	学校給食の実施者として市が責任をもってセンター方式により運営することによって、学校給食事業の安定的な運営がなされている。また、子どもたちの健康はじめ、栄養の偏りや食習慣の乱れを改善するなど、学校生活において重要な役割を果たしていることから妥当性は高い。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	市が学校給食を実施することで、調理業務委託によって必要な人員と調理技術を確保し、食中毒・異物混入・アレルギーに 対応し、安定した業務運営ができる有効な事業である。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	市内全校への給食提供の統合に向けた準備を進めることができ、調理業務・配達業務を統合したことで効率化は図られている。一方、安心で安全な給食を提供するうえでは、丁寧な作業と技術の向上を図る教育訓練等が必要であることから、着実に取り組む必要がある。
総合評価	安心で安全な給食を確実に提供していくために、適切な施設・設備の保守管理を継続していくとともに、徹底した衛生管理、異物購入防止対策を追求していく必要がある。また、保護者や子どもたちの安心を育むことは大切なことで、不適正事案については、発生防止に努めるとともに、説明責任を果たしていく必要がある。	

## 第4章 評価委員の意見

### ○教育委員会の活動状況

- 定例の教育委員会では、議案等の審議のほかに市内教育の現況等が報告されるなど、開かれた会議となっているようなので、引き続き有意義な会議となるよう希望する。なお、地行法第13条6項に「教育委員会の会議は公開とする。ただし、人事…その他事件について…」（努力義務）と示されているので、他市町村の状況を踏まえながら、会議の公開について検討していただきたい。

学校訪問に当たっては、鉢田市の重点目標や当該校の課題等を踏まえて視察し、懇談の中で指導助言を与えていくことと思うが、各学校の教育力の向上が図られるよう引き続き指導助言願いたい。

教育委員として、①教育委員会の審議の活性化②事務局へのチェック③民意を反映した教育行政の実現などにも引き続き取組み、教育委員会の活性化を図っていただきたい。

#### 1 小中学校等給食費支援給付金事業

- 家庭の格差が進むなかで重要な事業だと思う。  
給食の無償化を進めているということで今さらだが、申請主義は事務的手続きを煩雑にし、また申請者にとって負担になる可能性があると思われるため、本事業に関わらず、できるだけ簡略化できるといいと考える。
- 本事業は、事前調査(Research)を行い、調査結果を基に給食費支援金給付を計画(Plan)し、負担額を1,500円(Do)として家計の負担軽減を図り、事後調査により事業の評価を(Check)行い有効性を確認し、本事業では保護者の申請が必要という改善(Action)すべきことを明確にした理想的な事業の進め方と評価する。
- 保護者の負担が減ることは有効であり、家庭負担の割合を占める給食費に対しての事業なので評価できる。

#### 2 旭中学校区統合小学校整備事業

- 必要な事業であると同時に、丁寧に進めていくことが求められる事業であると思う。効率ばかりを重視してはいけない事業だと考えるので、今後も多様な意見を取り入れて進めていただきたい。太陽光パネルや多目的トイレの設置などもよく考えられていると評価できる。
- 物価高と資材不足という現況の中にも関わらず、令和8年開校というスケジュールで計画通り事業が進められることには、関係者のご苦労が

あったことと評価する。また、旭中学校区の小学校は、中学校に隣接しているということで、中学校との交流や連携が考えられ、中1ギャップの解消にも繋がると期待する。

- 既に開校をしている3校の改善点を活かして、安心安全な環境づくりをお願いしたい。

### 3 英語指導事業

- 英語力向上にとって重要な事業だと思う。「英語を学び続けたい」、「外国人の人たちと英語で話してみたい」といった学習の動機づけに関する調査の結果が向上していることは、大きな成果が上がっていると評価できる。

英語の学力は二層化しやすいと思うので、今後はいわゆる出来ない子どもたちが楽しく思えるような授業に向けて、さらなる工夫をしていただきたい。

- ALTを活用した英語の授業を展開することにより、小中学校とも英語が楽しい、学び続けたい、英語で話してみたいという児童生徒が多くいるというアンケート結果は、ALTと指導教員の配置が英語指導に効果があると判断できる。本事業の目的は、英語教育で課題となっているコミュニケーション能力の育成である。そこで、事業の評価に当たっては、コミュニケーション能力が向上したかどうか数値等で客観的に評価し、改善策を明らかにすることで、次年度の英語指導事業の向上が期待できると考える。
- 子どもたちに、英語を好きになってもらえる環境・学習を整えていただきたい

### 4 のびのび児童生徒推進事業

- 適応指導教室とスクールカウンセラーの連携、さらには生徒指導主事が適応指導教室を訪問するといったことは、学校と適応指導教室を一体化する機能をもっていると思われ、とても高く評価できる。居場所としての学校を育んでいくためにも大切な事業であるように思う。
- 本事業は、①児童生徒の心のケア②不登校サポート③学力向上支援の3本柱であると思うが、一人一人の児童生徒の理解と健全育成に資するための重要な事業と評価する。3事業とも学校教育への人的支援策であることから、その成果については、数値等による客観的な評価を行い、改善策を検討して次年度の計画に生かすような事業展開を期待する。特に、市費事業である学力向上支援事業の目的は、「複数の指導者できめ細かな授業を行い、個に応じた学習を進めることで、学力の向上を図る」とある。

そこで、指導課には、配置校の支援策とその成果を報告させ、学力が向上したかどうかを数値等で客観的に評価し、次年度の学力向上支援策を検討

するように、段階的な事業の進め方を希望する。

- ・ 子供たちの悩みや問題行動は多様化しているので、専門的な指導者は必要と考える。

## 5 ことばの教室事業

- ・ 鉢田独自の事業であり、とても高く評価できる事業。子育てに不安を持っている保護者はたくさんいるように思われるが、相談しやすい環境づくりとして大切な意味をもっていると考える。
- ・ ことばの教室では、通室者の半数以上が改善していることからも、有益な事業と判断できるので、改善事例等を紹介し、幼稚園や保育園、保護者の理解と協力を得ながら、引き続き事業の推進を図るよう願いたい。

また、ことばの障害は、早い段階の支援に効果があると言われているので、幼稚園、保育園、健康増進課などとの連携を図りながら、子どもへの対応だけでなく、保護者への相談にもきめ細かに対応することを希望する。

ことばの障害は、幼児期だけでなく小学校段階でもあるのではないかと考えられるので、小学校での対応にも十分配慮願いたい。

- ・ 子供のことばに対しての問題を不安に思っている保護者は、たくさんいる感じ。

そのため、相談や指導ができる体制は常に整備をしていただきたい。

## 6 特別支援教育支援事業

- ・ 発達障害をはじめとして、子どもたちの多様性が高まっている状況のなかで支援員を配置することは、本人はもちろん、学びの環境づくりとしても大きな意味をもっていると考える。個別最適な学びを進めていくためにも必要な事業であり、高く評価できる。コロナ禍において、学校に指導主事が赴き、具体的な実践の場の中で研修を行ってきたことも、支援員の方の資質向上に寄与していると思う。
- ・ 支援員が必要な児童に支援員を配置することで、児童生徒は落ち着いて学習に取り組むようになり、結果として安定した学級運営が期待できることから有意義な事業と評価できる。支援員の配置数は年々増加傾向にあり、要望に応えることが大変かと思うが、どのような支援が必要か分析・検討し、児童生徒の実態に応じた支援員が配置できるよう、学校との連携強化を引き続き希望する。

また、支援の効果をあげるためにには、支援員の研修が極めて重要と思うので、学校だけでなく、相談員や指導主事等も参加しての研修を行い、支援力の向上を図るよう希望する。

- ・ 対象児童が安心して学習できる環境を持続するよう努めていただきたい。

## 7 家庭教育支援事業

- ・ 家庭が孤立化し、不安に陥りやすい状況がある現代において、家庭の教育力向上を図る本事業は高く評価できる。また、ピアサポート的な機能をもつサロン型の家庭教育学級の開催も、これから社会にとって重要な意味を持っていると考える。孤立化し声を挙げられない家庭も増えていくことが予想される中で、訪問型家庭教育支援活動も今後一層充実させていただきたい。
  - ・ 家庭の教育力も低下傾向にある現状から、家庭教育支援事業は社会教育の中でも重視しなければならない事業と評価する。特に、幼・小・中学校で、創意工夫しながら取組んでいる家庭教育学級は、家庭の教育力向上に大いに寄与していると評価する。
- また、支援員の人材育成と確保が課題のようであるが、家庭教育と子育て支援は共通する部分が多いと思うので、それぞれの子育てを終わった世代に依頼することで、体験を生かした支援が期待できると考える。
- ・ 子育てで悩む保護者も多いと思うので、講座の開設等を検討していただきたい。

## 8 二十歳の集い事業

- ・ コロナ禍であることを十分考慮しながらも、主体的な式典を企画実行したことは高く評価できる。
- ・ 令和4年度の成人式は、新型コロナ感染症の5類移行前の開催とあって、感染症対策ガイドラインの作成や抗原検査キットの事前配布など、きめ細やかな計画で実行できたと評価できる。

また、式典のYouTube配信や記録映像を制作したDVDを配布など、記憶に残る成人式が開催でき、コロナ禍でボランティアの協力が得にくく、実行委員会を中心に混乱もなく予定通り実施できたことには、これまで引き継がれてきた実行委員会の伝統と事務局のご苦労の賜物と評価できる。

- ・ 成人者が自ら計画し、実行する素晴らしい事業と評価できる。

## 9 花いっぱい運動事業

- ・ 素敵な事業だと思う。学校の多忙化、働き方改革を進めなければならぬ状況のなかで、今後一層地域としての活動の方向性を探っていただきたい。
- ・ 「花いっぱい運動」は、地域の環境美化と地域コミュニティの輪を広げるよい機会と考えるので、引き続き取組んでいくことを希望する。

また、以前は「花作りは人づくり」と言われ、多くの学校が「花いっぱい運動」に参加していたが、現在の学校には花壇も少なくなり、子供が花

作りに参加する機会も少なくなったように思われ、今後の課題と考える。

## 10 放課後子供教室推進事業

- ・ ICT活用の時代であるからこそ、体験型の学習がますます大切になっていくようだ。その意味で、学習指導要領に縛られず自由に学びの楽しさを伝えることのできる本事業は、重要な意味をもっていると考える。今後一層外部講師として地域人材の発掘をしていただきたい。
- ・ 安心安全な居場所を今後も確保するよう努めていただきたい。

## 11 生涯学習館管理運営事業

- ・ 生涯学習にとって地域に市民協働の場を形成していくことは重要であり、本事業は高く評価できる。今後も生涯学習館は学びの基地になっていくような事業を進めていただきたい。
- ・ 3人の職員が、得意分野を生かしながら施設の改善に取り組み、展示室や資料室等が日々進化しており、職員の手作りの郷土文化施設とは思えないほどになったと評価できる。今後は、展示室の案内役にも力を入れると、郷土の歴史と文化の理解が深まり、親しまれる施設になることが期待できる。

本年度は企画展を2回開催したが、市内だけでなく県内外から多くの来館者があり、鉢田市の歴史と文化を広めることができたと思う。

なお、市外の来館者からは、「とくしゅくの杜」までの案内板が欲しいという要望があったので検討願いたい。

また、生涯学習館関係ボランティアには、環境ボランティアと運営ボランティアがあるが、高齢化してきており後継者を育てていくことが課題と考える。

## 12 イングリッシュ・キャンプ事業

- ・ 国際理解や国際的コミュニケーション能力が問われる時代において、本事業は重要な意味をもっていると思う。もちろん参加できる生徒数は限られてしまうが、鉢田市を象徴するような事業になっていくといいのではないかと期待する。30名募集ということで、令和4年度は22名参加ということだが、多くの募集者が現れるような事業にしていっていただきたい。
- ・ 全国学力テストの結果から、日本の子供たちの英語コミュニケーション能力に課題があることが指摘されているので、本事業で行う「異文化体験を通しての英語学習」は、極めて貴重な体験であり今後の英語学習に生かせると評価できる。

また、本事業は、①学校で学んだ英語を最大限に活用し、体験を通して

国際理解を深め、英語コミュニケーション能力の向上を図ることが目的であること②野外でのキャンプではなく研修所での研修が中心であること③研修内容が英語表現を身につけられるようなレッスンであることから、「生涯学習課」というよりは「指導課」に関わる内容だと思う。その理由は、専門性の高い指導主事や英語担当の教諭が引率した方が、引率者の指導力向上にも繋がり、結果として学校全体の英語力向上に寄与できると考えるためである。

- ・ 多感な時期から異文化に触れ体験をすることができ、英語を身近に感じじができる素晴らしい事業と評価できる。

### 13 文化財保護・啓発事業

- ・ 郷土愛の育成にとっても、大切な事業だと思う。とくしゅくの杜を活用した体験型の活動を進めていることも、とても興味深く感じた。
- ・ 市内の貴重な文化財を保護することも重要であるが、活用することも重要なかと思うので、文化財審議委員会でも、文化財の理解と活用法について審議していただきたい。

また、文化財審議委員会には、文化財展示施設の在り方についても協議していただき、市民に親しまれる施設となるような意見や提言をいただきたい。

### 14 スポーツ推進事業

- ・ コロナ禍のなかで工夫をして野球、卓球、アメリカンフットボール／フラッグフットボールの大会を開催したことは、高く評価できる。とくにフラッグフットボールの普及・振興については、鉢田の特徴になるのではないかと感じた。
- ・ 日本アメリカンフットボール協会と連携協力に関する協定を締結し、アメリカンフットボール／フラッグフットボールの普及を図っていることは、新たなスポーツへの取り組みと評価できる。

また、国から中学校運動部活動を地域移行するようにとの方針が示され、休日の運動部活動は令和7年までに地域移行の方針なので、市教育委員会内でも検討の必要があると考える。

さらに、全国中学校体育連盟は、学校だけでなくクラブからの出場も許可するという方針を示したので、今後、市町村の大会の在り方も、この方針で検討することが必要かと思う。

- ・ 鉢田市で各種スポーツの大会が多く開催されることによって、鉢田市の子供たちの運動能力の向上にもつながり評価できる。

## 15 スポーツクライミング推進事業

- ・ スポーツクライミングセンターが存在していることの強みを生かし、それを鉢田の魅力とすることを可能にする本事業は非常に高く評価できる。  
今後スポーツクライミングが広く認知されるようになっていく状況において、全国レベルの大会を開くことは、鉢田市の魅力を全国に広げることになると思う。
- ・ スポーツクライミング専用施設が市内にできしたことにより、クライミング体験教室や小学生クライミング教室などに多くの市民が参加するようになり、大会でも入賞者がでるなど、クライミングが市民に広がりつつあると評価できる。  
また、市内大会だけでなく、県や全国規模の大会も開催しており、全国からの参加者が鉢田市を訪れるようになり、知名度アップに貢献していると思う。
- ・ スポーツクライミングが鉢田市のPRとなるよう広く推進をしていただきたい。

## 16 体育施設管理事業

- ・ 予算確保は大変と思うが、鉢田市民の健康増進にとって必要な事業だと思う。また、多目的トイレの設置や外灯のLED化など社会状況を意識して修繕改修を行っていることも高く評価できる。
- ・ 体育施設は、安全で楽しく使える施設であることが求められているので、施設の点検や修繕、改修が重要な業務と考えられるため、限られた予算の中で、老朽化や危険の度合いに応じて計画的に施設整備に努めるよう希望する。  
また、市内には閉校小学校の体育館を含めると多くの体育施設があり、状況確認だけでも大変な業務量かと推測されるが、今後老朽化が進むにつれて、修繕や改修費も多くなると考えられるので、体育施設の将来像を検討することが必要かと思う。
- ・ 市民が安全にスポーツを楽しめる環境づくりに専念していただきたい。

## 17 公民館維持管理事業

- ・ 予算確保は大変と思うが、鉢田市民の生涯学習活性化にとって必要な事業だと考える。
- ・ 公民館は市民の生涯学習の施設として大きな役割を担っているので、安全で快適に利用できる環境づくりには特段の配慮を願いたい。  
また、老朽化が進んでいる公民館もあるので、施設、設備の改修や修繕等に多額の費用を要するとともに、今後ますます増えていくことが考えら

れるので、将来的な方向性を検討するよう希望する。

- ・ 公民館を無くすことは難しいと考えるため、老朽化等の対策に努めていただきたい。

## 18 公民館運営事業

- ・ 今後ますます生涯学習を支えていくために公民館の機能は重要な意味をもつようになると思う。生涯学習において、市民の主体性を維持するために、講座等を参加者のアンケートを参考にして計画していることも重要な意味をもっていると考える。
- ・ 公民館事業の参加者数は、成人教育が68回実施し、807人が参加。青少年教育は37回実施し、475人が参加。高齢者教育は12回実施し、374人が参加している。総実施数は117回で、1,656人と多くの参加があることから、必要性の高い事業と評価できる。

また、公民館講座には、例年多数の申し込みがあり、令和4年度の参加者の満足度は90%を越えていることから、講座内容も市民の学習要望に応える内容と評価でき、特にオンラインでの配信やICTに関する講座を実施し、市民のICTリテラシーの向上に寄与していると思う。

## 19 芸術文化創造事業

- ・ 人間の成長にとっていい本物の音楽を聞くことは大切な意味を持っているので、本事業は高く評価できる。学校教育においては鑑賞教育に限界があることを考えても、市内の幼稚園や小中学校と連携していることは大切な意味をもっていると考える。
- ・ 本事業は「文化芸術の推進により、心豊かな生活及び活力ある社会の実現に寄与することを目的とする」という「文化芸術基本法」に基づき、教育委員会の基本計画により実施している有益な事業と評価できる。

また、本事業で行っている、市民ミュージカル、劇団、合唱団、合奏団など芸術文化団体への支援は、団体の活性化に繋がり芸術文化振興の趣旨に沿っていると考える。

さらに、入場者数も延べ1,302人（1公演当たり108人／定員130人）と多くの市民に文化芸術を提供できたと評価でき、幼・小・中学校の延べ1,593人の子供たちにミニコンサート等の提供ができたことは、有益なアウトローチだと評価できる。

- ・ 市民の文化意識向上のために積極的に各事業のPRをしていただきたい。

## 20 図書館維持管理事業

- ・ 予算確保は大変と思うが、図書館の情報の基地としての役割は一層求め

られるようになると思う。その意味で地域の図書館を維持していくことは重要な意味をもっていると考える。玄関が情報発信の場として整備されたことはその第一歩としてよかったですと評価できる。

- ・ 玄関のコインロッカー等を撤去し、広報紙や観光パンフレット、各課からのお知らせなどを置き、情報発信の場に改修したことは、市民の読書を支援するだけでなく、資料や情報を提供することで、市民の課題解決能力の向上に資するという、これからを目指すべき図書館の姿であろうと高く評価する。

図書館は、築40年を超えて老朽化も進み、今後、定期点検に加えて施設、設備の改修・修繕等の費用も多くなることが想定されるので、将来的な方向性を検討する時期も近いと考える。

- ・ 老朽化している箇所の整備に努めていただきたい。

## 21 図書館運営事業

- ・ 情報を発信することにより利用啓発を行う本事業は大切な意味をもっていると思う。
- ・ 臨時閉館で開館日数が減ったにもかかわらず、入館者数・資料貸出数が増加傾向にあるのは、企画コーナーの設置や市広報誌等による図書情報の提供などの成果と評価できる。

また、図書館司書の働きにより、図書資料はよく整理されており、図書の検索にも丁寧に対応するなど、市民が利用しやすい環境になっている点についても評価できる。

- ・ 利用しやすい環境の整備とサービスの充実に努めていただきたい。

## 22 図書館資料収集事業

- ・ 予算や配置場所の制約があるなかで、工夫して資料を整備している本事業は、地域の図書館としての特徴を生かしており、高く評価できる。
- ・ 図書の購入では、市民のニーズに応じたリクエスト購入を取り入れるなど、市民サービスの向上に努めようとする姿勢が評価できるため、今後も引き続き市民目線を忘れずに取り組むことを希望する。

また、古書店からの購入や個人の寄贈により、地域資料の整備に取り組んだことは、郷土理解を図るために役立つ資料の収集と評価できる。

- ・ 市民のニーズに応えられる資料を収集することで、市民の利用増加に効果があると思う。

## 23 ブックスタート事業

- ・ 図書館は情報発信のみではなく情報共有の場ともなると思う。その意味

で本事業においてブックスタートだけではなく、フォローアップを行い、子育て支援の場を提供していることは高く評価できる。

- ・ 赤ちゃんと保護者が、絵本の読み聞かせを通して心触れ合う機会をつくる本事業は、乳幼児の感性を高める素晴らしい事業だと評価できる。

また、乳児検診にあわせて「ブックスタートパック」を使って、絵本等を配布することは、確実で効率的な配布方法と思う。

- ・ 継続をしていただきたい事業と考える。

#### 24 図書館環境改善事業（地方創生臨時交付金事業）

- ・ コロナ禍における地方創生臨時交付金事業を活用して、コロナ対応等を行ったことは図書館の維持にとっても評価できる。
- ・ 感染症が流行すると、図書館利用を躊躇する傾向があることから、抗菌仕様のカーペットへの改修や抗ウイルスブックカバーフィルムの利用は、利用促進を図るために効果的と考える。

#### 25 学校配本事業（地方創生臨時交付金事業）

- ・ コロナ禍における地方創生臨時交付金事業を活用して、学校図書館との連携を行ったことは、高く評価できる。
- ・ 本事業は、学校と市立図書館の連携において、3つの新しい試みを行っているが、市立図書館司書という専門的知識を有する職員が、学校教育に関わる有意義な事例と評価できる。

1つ目の補助教材、読書の時間等に活用する図書を司書が選び、学校に届ける活動は、利便性だけでなく専門職の協力で多様性がでたと思う。

2つ目の学校図書館に設ける市立図書館の司書が選書・展示する特設コーナーであるが、読書環境の充実だけでなく、市立図書館が身近な存在になったと思う。

また、学校連携という新しい事業なので、教師や児童生徒側からの成果や評価などがあると、研究的事業として報告書にまとめることもできると考える。

- ・ 学校で図書館の本を資料にできるということは、生徒が図書館に興味を持つことにつながると考えられるため、継続していただきたい。

#### 26 鉢田学校給食センター運営管理事業（地方創生臨時交付金事業）（繰越）

- ・ コロナ禍における地方創生臨時交付金事業を活用して、安心安全な給食提供を推し進める本事業は必要な事業だと思う。今後さらに衛生管理を徹底し、より一層安全安心な事業にしていただきたい。
- ・ 食材、燃料費の物価高騰の中、給食費を増額することなく、質・量を確

保した給食を提供することには、大変なご苦労があったことと推察する。

安全安心な給食を提供するため、食中毒、異物混入、アレルギー、そして新型コロナ感染等への対策を取りながら、業務を遂行することが極めて重要と考えるので、引き続き関係者と連携を図りながら取り組んでいただきたい。

- ・ 安心で安全な給食提供に努めていただきたい。